

「新居浜市を明るく笑顔あふれる町に」

惣開小学校 6年 秋戸 文車

私は新居浜市をもっと明るく笑顔あふれる町にするためには、犯罪やめんどなどをなくし、笑顔とあいさつを大切にすることが必要だと思いました。犯罪などがなくなると、みんなが安心して過ごすことができます。また、あいさつを大切にすることでみんなが自然と笑顔となり、さらにあいさつが広がっていくと思ったからです。

私の学校では、毎週平日の朝に「あいさつ運動」をしています。児童会役員が、学校の正門と裏門に立ってあいさつを広げています。この活動をすることであいさつをすることが増え、道行く人たちにもあいさつをすることができるようになっていっているなと思います。

この前、私は道德の授業で、「心を形に」という学習をしました。ある女の子の学校で、毎週木曜日の朝に「あいさつ運動」をしていて、下級生や道を通る人たちにあいさつをしていたのだけれど、あいさつをしても返してくれない人たちに対して、いやな気持ちを抱いてしまうというお話でした。しかし、あるおばあさんが、

「おはよう。いつもありがとうね。」

と言ってくれたことにより、女の子のあいさつに対する考えが変わっていきしました。私もこの女の子のような思いをしたことがあります。あいさつをしても返してくれないときのつらい気持ちはとても共感できました。そんな気持ちになったことがあるからこそ、あいさつをすることは本当に大切なのだなと思います。また、あいさつをすることで、自分も相手も明るい気持ちになり、自然と笑顔になっていくことがよく分かりました。そんな笑顔をたくさん増やしていくためにも、これからも毎日あいさつをし続けたいと思いました。

他にも、私はルールを守り、言われたことや注意されたことをよく聞いて行動したいと思います。学校には「ろうかを走らない」や「コーンがあるところには入らない」などのルールがあります。どのルールもみんなが安全に過ごすことができるようにと決められているものです。そのルールを守らずにろうかを走ってしまうとけがをしたり、だれかとぶつかってしまったりするかもしれません。自分のためにも他の人のためにもルールを守らないといけないなと思いました。校外に出たときも同じように地域の方々の言うことをよく聞いて迷惑をかけないようにしたいと思います。

私は、笑顔であいさつをする、ルールを守るというこの二つのことを意識する人が増えたら新居浜市はさらに明るく笑顔あふれる町になるのかなと思いました。これからは、私もこれらのことを意識して行動していこうと思います。

「明るい新居浜市のために」

惣開小学校 6年 越野 芽依

私は新居浜市がさらに明るくなるには、気持ちの良いあいさつをすることが大切だと思いました。出会った人に気持ちの良いあいさつをすると、自分もうれしくなり、相手も朗らかな気持ちになるので、あいさつはだれもが持っている魔法の言葉だと思います。

私は一年前までは、近所の人に小さい声でしかあいさつができていませんでした。それは、あいさつをすることが少しはずかしかったからです。しかし、今年からは登校班の班長となりました。しかも、たくさんの新一年生が私の班に入りました。そこで、「自分が元気よくあいさつをしたら、みんなも元気にしてくれるかな。」と思い、登校するとき出会った人に元気よく「おはようございます。」と言えるようになりました。

また、毎日安全に学校に行けるようにと、毎朝通学路に立ってくれている地域の方や先生方に、「おはようございます。いつもありがとうございます。」と、言うようにしています。あいさつだけでなく、さらにお礼を加えることで、気持ち良く一日をむかえることができます。

他にも私は、相手の視点に立ってよく考えて行動することが大切だと思います。私は、自分がされていやなことは相手にしないようにしています。人間はつらいときはそれぞれにちがうけれど、だれにだってされたらいやなことがあります。それは行動だけではなく言葉も同じです。最近、メールなどがよく使われています。打ったメッセージは取り消せせるけれど、私たちが口にした言葉は取り消すことができません。それがもしいやな言葉だったら、言われた相手の心に傷がのこってしまいます。もし、自分がその立場であったなら、もやもやするし、つらい気持ちになります。だから、相手の気持ちになって、よく考えて行動することが大切であると感じました。

このように、気持ちの良いあいさつをすること、相手の視点に立って行動や発言をすること。これらの二つのことを新居浜市民みんなが心がけると、今よりもさらに明るく、美しいすてきな新居浜市になるのではないかと私は感じました。もちろん自分も、今通っている学校や地域などで、これらのことを大切にしながら生活をしていきたいと思いました。

「新居浜市を明るくする運動」

宮西小学校 6年 大久保 香帆

私はあいさつが新居浜市を明るくするための一番の近道だと思います。あいさつをすることで周りの人達が明るくなれるのではないのかと考えました。例えば、一人暮らしのおばあさんやおじいさんがさみしくても私たちがあいさつをすることで、一人の人でも元気になれると思います。また何かで辛い思いをしてしまっている人でもあいさつをすることで明るくなれるのではないのかと思いました。

私達の学校では、毎朝六年生が全員で正門の前に立ち、登校する人や正門前を通る人にあいさつをするのですが、たまにあいさつをしてくれない人がいます。それは私のあいさつが心に届いていないんだなと感じました。でもあいさつ運動を続けていくうちにあいさつをしてくれなかった人達もしてくれるようになりました。あいさつは人の成長のためや元気にする魔法があるんだなと思いました。あいさつが苦手だった私でしたが今では、先生方が私に気付く前に、先に挨拶をするようになりました。また近所の人に自転車で通り過ぎてしまうことがあるのでちゃんと立ち止まってあいさつをしたいと思いました。そして「いただきます」や「ごちそうさま」のあいさつも野菜を育ててくれた人や、学校まで届けてくれた人に感謝の気持ちを込めて色々なあいさつをしたいと思いました。

次に新居浜市を明るくするために、あいさつだけでなく犯罪のない街にしていきたいと思いました。なぜなら新居浜市は犯罪の多い市だと聞いたからです。犯罪を犯してしまう人は何かをしないと気が済まないんだと思います。なぜなら普通の人は殺人や万引き、交通違反などしないのは我慢することが身についているからです。車に乗っている時にお酒を飲みたいけどそこは我慢をしてルールを守っています。でも犯罪を犯してしまう人は我慢が身についていないことで普通じゃない事をしてしまうのではないのかなと感じました。我慢とは学校などで学んでおかないといけない行動の一つだと思います。我慢は色々な行動に役立つ事だと思います。さっき言ったように犯罪をするのも止められるし、何か買ってもらいたい時も我慢をすることもできます。よくスーパーなどで小さい子が駄々をこねて「買って！買って！」と暴れているのを見たことがある人もいるかもしれません。それはまだ我慢というものが身についていないからだだと思います。このように主な二つのことで我慢という行動が役立つのです。学校内であるルールや家族とのルール、社会の中にあるルールをしっかりと守って生活していきたいと感じました。みんなが少しずつ我慢することでみんなが幸せになると思います。この新居浜市が笑顔であふれる街になってほしいです。

「我慢をすることとは」

宮西小学校 6年 藤田 佳澄

みなさんは我慢の大切さを知っていますか？我慢とはみなさんが思っているよりも大切なことです。我慢ができる人もたくさんいるけど我慢ができない人もたくさんいます。そこで私は我慢ができることでどんないい事があるか、そして我慢ができないことでどんな悪いことが起きるかを書きたいと思います。

まず我慢ができることで喧嘩が少なくなります。みんなが少しずつ我慢すると全員が楽しくすごす事ができるので喧嘩が少なくなります。

そして他にはもっといいことにつながります。私は何かを我慢して他のことに使ったらいい事がありました。それは他の人が笑顔になったことです。自分がなにかしたくても他の人にゆずったら感謝されていいことがありました。このように我慢をしたらいいことがあるので私はこれから少しだけ我慢をしてもっといい生活ができたと思います。

そして次に我慢ができないとどんな悪い事があるかを書きます。まず我慢しないと喧嘩がたくさんおこってしまいます。自分が少しでも気に入らないとそれだけで怒ってしまう人がいると思います。それだけでその雰囲気はだんだん広がって周りもムカムカしてきます。だけどみんな少しずつ我慢をしているので自分も少しだけ我慢することを意識するとどんどんケンカは減っていくと思います。

他にはいじめが起こってしまいます。さっき書いたように少しの我慢ができない人が自分の気に入らないことがあるとそれだけで人のかげ口を言ったり、人がいやがることを言ったりしてそのちょっとした意地悪がどんどん大きな意地悪へとつながっていじめになります。そうなったらもうおそいです。このようなちょっとした我慢で少しだけいじめが減ると私は思います。そしてこのようにいじめの種は思ったより身近にあると思います。そして周りの人はその種に気づいたらすぐ止めましょう。

そして少しずつの我慢を毎日心がけられる場所があります。それは学校です。学校にはたくさんの方がいるため少しの我慢をすることができる機会がたくさんあります。なので私は学校で少しずつの我慢をたくさんして毎日楽しく過ごしたいです。

なのでみなさんもこのようなちょっとした我慢をたくさんして楽しい学校生活を送ってください。

「新居浜市を明るくするために」

宮西小学校 6年 前田 駿

ぼくは水曜日と木曜日に学校で五時から六時半までサッカーの練習をしています。校区内なのでほとんど自転車でサッカーの練習に行っています。行きは車の通りも多く、明るいので怖くないですが、冬の帰りはとても暗く、家が小道にあってその小道を通る大人が通ったりするので何かされないか用心して通っています。

犯罪はいけないことだとほとんどの人は分かっていると思います。だけどがまんできずに人を殺したり、万引きしたりする人がいます。学校生活でもがまんできずに授業中、となりの人としゃべってしまったり軽い気持ちで悪口を言ってしまうことがあります。担任の先生はそのまま大人になると犯罪をしてしまうと言っていました。ぼくは、犯罪をしてはいけないとみんな知っているはずなのに、なぜ、犯罪をしてしまうのか考えてみました。ぼくの場合、イライラしたり感情がめちゃくちゃになったり自分をコントロールできなくなったりして授業中、となりの人や後ろの人、ななめの人としゃべったり軽い気持ちで、悪口を言ってしまいます。これまでに犯罪をしてしまった人も多分、イライラしていたり仕事の事情なので軽い気持ちでしてしまったんだと思います。このままぼくが今のままで、大人になったら多分悪口を軽い気持ちで言うかもしれないので今のうちに直しておきたいです。そして友達や低学年などが悪口を軽い気持ちで言っていたらやさしく声をかけて「悪口言っちゃだめだよ」と言えるようになりたいです。この作文が無だにならないように、それを実行し、明るい新居浜市、そして日本中が明るくなるように悪口を言ったり人を殺さずがまんしたら、悲しいニュースも聞かなくなって一日が気持ちよく終われるとぼくは思います。そうしたら学校に行かなくなる人もなくなって差別やいじめのないクラス、世界になると思います。なのでこれからこの作文がうそにならないように年中無休のやさしい心を持ち続けたいです。

「明るい街にするためにできること」

金子小学校 6年 窪田 結斗

ぼくが考える明るい社会とは、犯罪や差別のない、みんなが笑顔でくらせる街です。そんな新居浜市にするために、ぼくは二つのことを実せんしようと思います。

まず一つ目は、笑顔を増やすための取り組みです。ぼくは今、地域のイベントや障がい者施設などで、マジックショーをするマジックボランティアの活動をしています。きっかけは、四年生の夏に、ジュニアボランティア養成こうざに参加したことです。その時は、ボランティアをしようという気持ちより、ただマジックがうまくなりたいと思って始めました。けれど、いろんなイベントで、人前でひろうするたびに、子どももお年寄りも、みんなが目をかがやかせながら、喜んで見てくれ、ぼくらのマジックで周りの人たちが笑顔になっていくのを感じました。ぼくも、たくさんはく手をもらとうれしい気持ちになります。だから、これからも色々な技を身につけながら、マジックでたくさんの人に笑顔を届けられるようにがんばっていきたいです。他にも、「おはよう」「ありがとう」といったあいさつや、コミュニケーションが笑顔につながると 생각합니다。なぜなら、した側も、された側も、おたがいにいい気持ちになるからです。だから、ぼくは、自分から気持ちのよいあいさつをすることを心がけています。

二つ目は、社会問題に関心をもち、知識を増やす、ということです。ぼくは、人をいじめたり、差別したりしてはいけないと思っているし、これから先、自分が犯罪をおかすこともないだろうと思っています。だから、これまでいじめや犯罪のニュースを聞いても、自分にはあまり関係ないことだと思っていました。けれど、ネットやSNSを通して、自分の知らないところでも、犯罪にまきこまれたり、加害者になることだってあるんだと、お母さんから教わった時、自分の身を守るためにも、ネットゲームやSNSなどの正しい使い方を守り、気をつけていくことが大事だなと思いました。他にも、世の中でどんなことが起きているのか、きちんと知って、知識を持つことが、犯罪を予防することにつながると思います。だから、これから、新聞やテレビのニュースなどに注目するようにしようと思います。

自分の行動や言葉によって、人がどんな気持ちになるか、どんなことが起こるか、想像力を働かせ、明るい新居浜にするために身近なところから、自分のできることを実せんしていきたいです。

「助けあいの種をまこう！」

金子小学校 6年 坪内 ひなた

「おはよう！行ってらっしゃい」私の住んでいる地域には毎朝、金子小学校の西門で登校の見守り活動をしているおばあさんがいます。おばあさんは何十年も朝の見守り活動をしていて、登校中に車で通勤する人や、自転車で通学する中学生、高校生にもあいさつをしているそうです。登校班や間に合わずおくれる子供たちも知っていて「朝の登校班のことはなんでも知っている見守り隊のプロだ」とお母さんが話していました。そんなおばあさんを最近みかけなくなりました。お母さんに聞くとおばあさんは足を悪くして動きにくくなってしまったそうです。いつも見守ってくれていたおばあさんが居なくなると、とてもさみしい気持ちになりました。

そこで私はいつも見守りをしてくれているけれど、おばあさんは困った時、誰に見守りしてもらっているのだろうとぎ問に思いました。そこで調べてみると、新居浜市には、独居高れい者（七十歳以上）へ各地の見守り推進員さんによる、訪問や電話連絡などを行ってくれる見守りサービスがあることがわかりました。他にも認知症高れい者見守り SOS ネットワークというサービスがあり、けい察に届けると地域の協力しているかい護し設や病院、スーパーなどといっしょに行方不明になった時には、探してくれるそうです。

また、四年生の時に習った総合の時間に高れい者体験や、高れい者を助けてくれるかい護の人についてくわしく調べたりしました。高れい者体験をしてみて、年れいを重ねていくうちに目が悪くなって小さい字が見えにくくなったり、足が不自由になったり、色が見えにくくなったり一人でできないことや、高れい者にとって不便なことがたくさんあることがわかりました。私が一番不便だと思ったのは、足が不自由になることです。体験したときに階段を一段上がるだけでもつらくて、二階から三階まで登りきった後ものすごくつかれたからです。だから、この見守り推進員さん、けい察、SOS ネットワークなどで、高れい者のくらしを支えてくれるサービスは、高れい者にとってはとてもうれしいことだと思います。

また、地域での普段からのつながりも大切だと思います。おばあさんのように、毎朝登校班のあいさつに立つことで顔なじみができたり、いつもの時間に来る人が来ないと「どうしたのかな」と心配することができるからです。私も地域や校区の交流会や行事などに積極的に参加して顔を覚えてもらったり、おばあさんのように顔を覚えたりして地域の人たちと仲良くなりたいと思います。そうすれば、何か困った時に助け合えると思うからです。子供も大人も助け合って安心して住み続けられる地域はとてもすてきで、み力的な地域だと思います。

「あいさつのまほう」

金栄小学校 6年 大熊 遥香

わたしは、明るい町にするために地域の人とあいさつをしていくことは大切だと思います。そう思うようになったのは、わたしの経験があります。

外でわたしが遊んでいると、知らないおじいちゃんが、
「すごいね。」

と声を掛けてくれることが何度かありました。

そのおじいちゃんは、毎日、同じ時間に家の前を通っていました。最初は声を掛けられることが怖くて、なんで名前も知らない私にこんな風に話し掛けるのだろうと、不思議に思っていました。そのことをお母さんに話すと、

「お年寄りになると、足が不自由になるのに毎日ここを歩いているんだね。それって、すごいし、あなたに言葉を掛けたのは、喜んでもらいたいと思っているんじゃないのかな。」

と言いました。そのときのわたしは、知らないおじいちゃんなのにとあって、お母さんの意見には賛成できませんでした。おじいちゃんは、その次の日から毎日、毎日、家の前を通って歩いていました。そんなある日、おじいちゃんが、

「おはよう。」

とあいさつをしてくれました。そのときのわたしは、なぜかうれしい気持ちになって、

「おはようございます。」

とあいさつを返しました。いつものわたしならえしゃくをするだけなのに、あいさつをしていたのです。そのとき、わたしはあいさつをしてくれる人がいることがうれしかったのです。

考えてみたら、他にもそんな人がたくさんわたしの周りにはいました。家族や見守り隊の人です。何気ない毎日を送る中で、たくさんの人が自分にあいさつをしてきていることにわたしは、気づきました。そのときのおじいちゃんの「おはよう」の言葉は、とてもあたたかくて、うれしかったです。

この出来事を通して、何気ないこと、例えばあいさつを交わすことを大切にすることやそれを次々につないでいくことはとてもいいことだと考えました。わたしは、あいさつがきっかけで人との関係が近く、親しくなっていくのだと改めて思いました。今も、おじいちゃんと会ったときは、わたしからも、

「おはようございます。」

とあいさつをしています。

おたがいにあいさつを交わすつながりが町中に広がると、きっと町が明るくなり、住んでいる人の気持ちもきっと明るくなると思います。

「この町を明るくする方法」

金栄小学校 6年 黒田 健友

ぼくは、新居浜市を明るくする方法にどんなものがあるのかを考えました。

それは、新居浜太こ祭りをもり上げることです。

ぼくは、今年も五月三日に春の子ども太こ台に参加しました。口上としき者、太こを担当しました。朝早くから両親や地いきの方が、ぼくたちのために太こ台の運行の準備をしてくれていました。一日、みんなで太こ台をかいて地区周りをしました。

周る先では、太こ台が来るのを、道に出て待っていてくれる人もいました。ぼくたちだけでなく地いきの人も楽しみにしているんだなと思いました。ぼくは、口上を言うときは、感謝の気持ちをこめて、大きな声で「お花御礼」を伝えました。お花をくださった方は、「ごくろうさま。」「がんばってね。」と笑顔で声をかけてくれて、うれしかったです。ふだんは会うことのない、地いきのおじさんたちとも「ちょーせいじゃ。」と声をかけながら運行しました。お昼におべんとうをみんなで食べました。おじさんは、「よく食べるなあ。」とにこにこして話しかけてくれました。そして、「来年も、子ども太こに参加して、いっしょにやろう。」とも言ってくれました。太こ台を通して、色々な年代の方とも交流することができました。

考えてみたら、ぼくが楽しみにしている太こ台の運行は、太こ台を組んでくれたりいっしょに運行してくださったりするたくさんの人の協力のおかげで運行できているんだなと思いました。

でも、最近は太こ台の運行に参加する子どもがへっていると聞きました。だから、地域の方は、ぼくに中学生になっても、太こだいの運行に参加してとさそってくれたのだと思います。太こ台は、かいているぼくたちがわくわくするだけでなく、地いきの小さな子やおじいちゃんやおばあちゃんも見るのを楽しみにしてくれます。みんなを元気にする力があります。だから、自分なりにずっと続けてきた地いきの子ども太このおもしろさやみりよくを伝えていきたいと思います。友達にも参加を呼びかけたいです。これからも、たくさんの人と協力して太こ台を運行し、地域を盛り上げていきたいです。

「新居浜を明るくするために」

高津小学校 6年 竹内 怜士

僕が新居浜を明るくするために必要だと思うことは、たくさんの人が来る行事を増やしたり、新居浜をアクセスしやすい場所にすることです。人が集まる行事と言えば、みんな大好きな太鼓祭りです。その太鼓祭りを、秋のような季節である春にも行ってもいいと思います。年に二回太鼓祭りがあれば、一回目が行けなくても、二回目に行けたりするので良いと思いました。かき夫の人は大変になるかもしれないけど、新居浜の文化を知ってもらうきっかけになるとと思います。

もう一つは、別子銅山の歴史を知ってもらうイベントを作るといいと思います。ドラマ化やアニメ化などいろいろな方法で楽しめるようにすると、これからの世代にも知ってもらえるし、別子銅山を守ることににつながるので、良い機会だと考えました。

新居浜をアクセスしやすい場所にするためには、空港を作ったり、既存の橋以外にも九州につながる橋を作れば良いと思いました。そうすれば、新居浜に来る人が増え、旅行の選択肢が増えます。しかも、最近はSNSもたくさんの人が利用しているので、新居浜について書き込む人が増えて、新居浜が少しでも有名になれば良いかなと思います。

アクセスを増やすといっても、外国まで行くとオーバーツーリズムが問題になると思うので、自分では考えられませんが、国内だと問題も少ないと思います。

なぜ僕が、このように来る人を増やせば良いなと考えたのには、理由があります。それは、人を増やしてそこから活気を取り戻すのが良いと思ったからです。また、年々新居浜の人口は減少しているので、新居浜を知って、移住する人が増えると考えたからです。そんな簡単なことではありませんが、僕の考えが少しでも新居浜を明るくするためにつながればうれしいです。

「優しい新居浜市づくり」

浮島小学校 5年 小溪 隼矢

ぼくは、「非行」という言葉を知りませんでした。そこで、国語辞典を使って調べてみました。すると、「悪い行い」と書いてありました。分かったようで、よく分からなかったぼくは、インターネットで、愛媛県でどれくらい非行件数があるのかを調べることにしました。

調べれば調べるほどびっくりすることばかりが目に見えこんできました。まず、令和六年度の非行件数は、七十六件もあり、さらに令和七年度にはすでに八十一件もの非行があったそうです。さらにおどろいたことは、「非行の中心は小・中学生で、全体の五十三・一パーセントを占める」ということに一番おどろきました。まさか、自分と同じくらいの年れいの子が非行をしているとは思わなかったからです。もっと年れいの高い人たちがやってしまうことばかりだと思っていました。ぼくは、自分が非行なんてするわけないと思っています。しかし、この件数を見ると、少し怖くなってきました。八十一件のうちの何人かは、非行をしてしまう前にはぼくと同じ思いをもっていたのではないかと思うからです。

ぼくも、家でお母さんによく怒られることがあります。人にめいわくをかけたり、だらだらしたり、何回も言われているのにそれを直さなかったときです。ぼくは、毎回そのことが悪いと分かっています。しかし、楽したいという気持ちや、少しの弱い心がしてしまう原因になっています。非行もきっと同じです。少しの弱い心と、きょう味とが招いた結果だと思います。ぼくも他人事ではないと思います。だから、これからはもっと強い気持ちを持って、ダメなものはダメ、人にめいわくをかけないという強い気持ちを持ちたいです。

今、ニュースを見ると、毎日のように悲しいニュースが流れます。その中には十代の人々が人を刃物で傷つけたり、インターネットで悪口を書きこんだり、ぼくには考えられないような犯ざいがあふれています。もちろん、自分の強い心も大切なことだと思うけれど、もっと大切なのは周りの支えだと思います。優しい声をかけ合って、みんなが笑顔になれば、自然と非行件数もへっていくような気がします。

これからぼくは、もし悪いことにまきこまれそうになったり、してしまいそうになったりしたときは、自分の心にしっかりノーをつきつけたいです。非行のない優しい新居浜市の街づくりにこうけんできたらいなと思います。

「みんなが楽しい新居浜へ」

浮島小学校 6年 永井 咲妃

私は、新居浜を明るくするためには、話し合っ問題て解決することが必要だと思ひます。そうすれば、犯罪や非行をなくすことができると思ひます。

最近、クラスメイトが、おこつてだれかをたたいたり、ひどいことを言ったりしているのを見ました。暴力や暴言は、大人になると犯罪になる行為です。小学生も、当然してはいけません。みんな分かっているはずなのに、なぜしてしまうのでしょうか。それに、その時にたたかれたりひどいことを言われたりした人からは、自分はそこまで強く言つたつもりじゃなかったから、どうして相手がおこつたのか分からない、という話も聞きました。私は、二人は話してみれば良かったのにな、と思ひました。

私は、もし自分が友達とけんかしてしまつたら、と考へてみました。相手に腹が立つた時には、勢いで行動せず、冷静になる時間をつくればよいのではないかとと思ひます。どちらか一方でも少し考へる時間を取り、何に腹が立っているのか、本当にそこまでおこるほどのことなのか、と考へることができたら、どうでしょうか。一回状況を整理して、自分が相手に伝えたいことがはっきり分かれば、暴言や暴力にはつながらないはずです。そして、おたがいのイライラを少しでも減らせれば、力ではなく、話し合ひで解決することができるかもしれない、と考へました。

私のクラスでも、時々けんかが起こります。昨年、クラスでお楽しみ会の計画をしている時にもけんかになりました。A君が、遊びの内容を提案しましたが、B君がA君の意見について反対の意見を言ひました。そのとき、A君は反対されたことに怒つて、大きな声を出したり、ひどいことを言ったりしました。A君と担任の先生が少し話して、A君が落ち着いてから、もう一度、本当に言ひたかつた思ひをクラスの人に伝えました。A君の本当の気持ちが分かつたので、みんなも受け入れて、みんなが楽しめる遊びに決まりました。こうして、話し合つて解決することができました。

このような経験をして、その場の怒りだけで行動すると何も解決しないことや、一度冷静になつて話し合ふことが本当の解決につながるということが分かりました。もし、周りでケンカをしている人がいたら、落ち着くように声をかけたり、話を聞いてあげたりして、解決に向かうような話を一緒に考へたりしたいです。そうして、明るい新居浜をつくつていきたいです。

「非行や犯罪をなくすために」

垣生小学校 5年 岡部 楓子

みなさんは、非行や犯罪についてどう思いますか。「自分には関係ない」と思っている人もいるかもしれません。でも、非行や犯罪はとても身近にあることなのです。

わたしは、マチコミというアプリで、ときどき「不しん者が出ました。」などの情ほうを見ます。新居浜市でもあぶないことがいろいろと起きているのだと知って、おどろきます。

わたしのお姉ちゃんは、朝、自転車で学校に行くとちゅう、知らない人とすれちがったときに、「パシャッ」と音がして、ふり返ると写真をとられていたそうです。とてもこわかったと言っていて、わたしもその話を聞いて、こわくなりました。

このように、身近にもこわいことがあるので、わたしは遊びにいくのが不安になることがあります。あいさつされても、その人を知らなかったら、「不しん者かもしれない。」と思ってしまいます。反対に、知っている人に声をかけられると、わたしはうれしい気持ちになります。たとえば、友達のお母さんが、「おはよう。」と言ってくれると、見てくれているんだなと思って安心します。だから、もっと近くに住んでいる人とあいさつをしたり、話したりすることがふえたらいいなと思います。顔なじみの人がふえると、こわいと感じることが少なくなるし、何かあったときに助けてもらえると思います。

こわい思いをしないために、わたしにもできることがあると思います。たとえば、一人で知らない道を通らないようにしたり、友達といっしょに行動したりすることです。いつもまわりに気をつけてすごすことが、自分がまわりの人を守ることにつながると思います。

そして、もし非行をしてしまった人がいたら、その人がやり直せるように、まわりの人が見守ってあげることも大切だと思います。

「まちがえてもだいじょうぶ。」「やり直せるよ。」と言ってもらえたら、その人も変われるかもしれません。

わたしが大人になっても、みんなが安心してすごせるまちをつくるために、自分にできることを見つけていきたいです。

「みんなが笑顔になる町」

垣生小学校 5年 吉村 誠太郎

この作文に何を書くかまよっていました。すると母が、
「人がどんな時に笑うのかを考えてみたらどう？」

と言いました。人は、おもしろい時や、楽しい時や、うれしい時に、たくさん笑うと思いました。そこで、家族に聞いてみました。ぼくは、遊ぶ時間がたっぷりあるときに、笑います。妹とにらめっこをした時にも、二人で同時に大笑いします。妹は、ぼくが変な顔をした時に笑うそうです。母は、だれかと、おしゃべりをしているときに笑うと言っていました。二才の妹は、きげんがいいときに、おなかの辺りをちょちょしてやるとよく笑います。中学生の姉は、アイデアがたくさんうかぶときや、料理をしているときによく笑うそうです。みんなに聞いてみて、笑うときは、人それぞれなんだと思いました。

共通点も見つかりました。それは、笑うときに必ず相手がいることです。たとえばぼくは、友達とサッカーをするときに笑います。もし、笑い合える相手がいなかったら、笑顔になることさえなくなるかもしれません。

ぼくは、新居浜市がみんなが笑っている町になったらいいなと思います。みんなが気軽にいける広場や公園があったら新居浜市がもっと明るくなると思います。

昨年、姉が子ども選挙というイベントをワクリエ新居浜でかいさいしました。その子ども選挙というイベントは、子どもが市長選挙の日と同じ日、同じ人に投票するイベントです。

ぼくは、みんなが笑顔な町になったらいいと思います。どうしてかという、みんなが笑っていると笑顔で、明るい町になると思うからです。

そのためにぼくにできることは、みんなに話しかけることだと思います。理由は、相手がいるときに人はよく笑うからです。

「みんなが安心安全にくらせる新居浜市」

神郷小学校 6年 今井 実奈津

わたしは、新居浜市を、だれもが安心安全にくらせる市にしたいと思っています。そんな新居浜市にするためには、まず、登校はんに、もっと気をつかえばいいと思います。実をいうと、わたしは登校はんのはん長です。

はん長の仕事は、「毎朝班のみんなを安全に学校へ連れて行く」ことです。といってもわたしのはんは、ちょっと問題がおきていますが。それは、低学年の子たちが二列になって歩いてしまっていることです。注意をしているけれど聞いてもらえる時と聞いてもらえない時があります。聞いてもらえる時は、よかった、と安心できますが、聞いてもらえない時は、すごくむかむかしますし、ため息が出てしまいます。それに、車の人からしてはどうでしょうか。せまい道などで、はんの子が二列になると、きっと、すごくめいわくだと感じていると思います。けれど、みんなを安全に学校へ連れて行くのがはん長の仕事なので、これからもっとがんばって低学年やそれ以外の子たちを安全に学校へ連れていきたいと思っています。話はかわりますが、下校の様子はどうなっているのでしょうか。わたしは、クラブなどで、ときどきにしかみんなと下校していません。けれど、みんなと下校する時は、やっていいのかな？と思うことがあります。それは、他の学年の子たちが寄り道をしていたり、三列や四列になって歩いていることです。そこで注意するのが正しいのですが…わたしはその時、注意することができませんでした。どうしてか、それは、自分に勇気がなかったからです。わたしは、その時のことを、とても、後悔しました。だから、次から注意をできるようにがんばることにしました。わたしは、学校で積極的に手をあげて、はっぴょうをしました。それは自分に勇気をつけるためです。そして、みんなで下校する日がやって来ました。わたしは、「よしチャンスだ！」と思いました。そして、また前と同じ子たちが、道を飛び出したり、三列四列になって歩いていたので、わたしは、「そんなことしたらだめだよ。車のじゃまだよ。」と言いました。そしたら、その子たちは、すなおに、「ごめんなさい。」とあやまってくれました。わたしは、ああ言えてよかった。勇気を出してよかったな。と思いました。この時は、まだ、考えていませんでしたが、このことを書いている今、これも、新居浜市をよくしているのではないかと思います。だれかの行動一つで新居浜市はどんどんいい市になってきています。それと、登校はんの時も思ったけれど、だれかを注意するって、とても勇気がいることです。新居浜市をもっとよくするために、わたしは、また、こういう場面に出くわしたら勇気を出して、注意をしたいと思っています。

「新居浜市を美しく住みやすい町へ」

神郷小学校 6年 高橋 こはる

みなさんは道ばたにごみが捨てられているのを見たことがありますか。新居浜市民の一人として私は改めて、考えなければならないことがあるなと思います。それは、マナーやルールについてです。

新居浜市には、花火大会や太鼓祭りなど、多くの人でにぎわう行事があります。毎年私も楽しみにしています。しかし、多くの人が集まるとなぜかごみが町に散乱しています。

では、なぜ人が集まると、ごみが捨てられてしまうのでしょうか。それは、ごみ箱が満杯になっても、周りの人たちが捨てているのを見て自分も捨ててしまうのだと私は思います。他にも、ごみ箱が無いところでも、このくらい良いかと思い、ごみを捨ててしまう人が多くなるのではないかと思います。でも本当に良いのでしょうか。答えはもちろん「それではだめ。」です。人がしているからといって判断するのではなく、周りの人がどうであれ、みんなルールを守るべきです。自分が住んでいる新居浜がもし、ごみだらけの町になってしまったら、きっと住みにくく様々なあらそいごとが起こるかもしれません。そしてなにより、他の町の人たちも新居浜に行きたくないと思ってしまうでしょう。今ここに住んでいる人たちも、もっときれいで安全な町へ引っこししたいと思ってしまうかもしれません。

では、なぜ、この新居浜市がごみだらけな町ではなく、清潔に保たれているのでしょうか。それは、花火大会や、秋祭りなどの大きなイベントの後には、地域のボランティアの人々や、学校、市が協力し合いごみ拾いの活動を行ったり、他にも定期的に地域の人達が、道の清掃や川の清掃を行っているからです。

一人一人の行動で私達の町はごみでよごれたきたない町になってしまう可能性もあるし、反対にごみ一つないピカピカの町にできる可能性もあるのです。それならば私は、一人一人が協力し合いごみの無い美しい町になってほしいと思います。そうすれば、もっと「新居浜市に行ってみたい」「住んでみたい」と言う人も増えると思います。

今、私にできることは、ごみが捨てられていたら自分から進んで拾ったり、正しい場所に捨てたりすることです。そして町をきれいにしようとよびかけてくれる人がいたら、一緒に協力することです。もちろん、自分も積極的によびかけたいと思います。新居浜市の町を良くすることにつながっていくのだと思います。私が大人になった時、この新居浜が今よりもっと美しい町になるよう、私もできることから始めていきたいです。

「私の笑顔と私の勇気」

神郷小学校 6年 田中 虹

新居浜市を笑顔あふれる町にするために、私が大切だと思ったことは「人を思いやる気持ちを忘れないこと」です。新居浜市がどんなにきれいな町でも、新居浜市に住んでいる人たちの心が温かくなければ、決してすてきな町とは言えません。

ある時、こんなことがありました。道で重そうな荷物を持ったお年寄りに出会いました。その時私は、そのお年寄りに「持ちましょうか？」と声をかけました。そしたら「ありがとう」と言ってくれて、私の心は温かくなりました。お年寄りが使うバスや電車でも、自分から席をゆずりました。小さなことでも、そのような優しさが町の中に増えていけば、新居浜市も温かくなっていくと思います。

道や公園にゴミが落ちていたら、自分が捨てた物ではなくても拾ってゴミ箱に捨てたり、ゴミ箱にゴミを入れていない人がいたら注意したりすることも大切だと思います。誰かが見ているからではなく自分が「きれいな町にしたい」と思って行動することはとても大事なことです。

私が思う「思いやり」は、むずかしいことではありません。学校の友達が元気がなかったときに、やさしく声をかけたり、相手の話を聞いたりすることも、そうです。ちょっと周りを見て、「自分にできることはないかな」そう考えるだけで、思いやりの気持ちは生まれてくると思います。

もし、新居浜市に住んでいる人みんなが、思いやりの気持ちを持っていたら、けんかやトラブルも少なくなると思います。みんながにこにこしていると今の新居浜市よりも、もっとすてきで安心してくらせる場所になると思います。

私も、まだまだできていないことがたくさんあります。でも、これからは「自分にも何かできることは必ずある」そう思って行動していきたいです。何事にも、「自分には関係ない」や「できない」と思うのではなく、「するのは自分！」や「できる」という気持ちをわすれず、私の笑顔で、私の勇気でどんどん新居浜市を明るく、楽しい町にしていきたいです。

そして、そんな人が一人、また一人と増えていけば、私の住む新居浜市はもっと温かくすてきな町になっていくと思います。

私の大好きな新居浜市をこれからの時代につないでいけるように、ずっとずっと守っていきたいです。そして、これからいっしょに、活動できる仲間をたくさん増やしていきたいです。

「安全な社会にするために」

多喜浜小学校 5年 水口 紗寧

わたしは、いつか警察などに任せなくても安全な社会になってほしいと考えています。

テレビなどでニュースを見ていると、「お店に強とうが入った。」という記事を目にしたことがあります。そのニュースを見たとき、「どうして物をぬすんでお金を手に入れようとするのだろう。自分で働いてお金をかせいだらいいのに。ひどい。」と思いました。人は生活をするために働いている人が多いです。がんばっている人の努力をむだにして自分だけ楽をしようとしてはいけません。働くことは大変だと思いますが、わたしも大人になったら一生けん命働こうと考えています。

ほかにも、「人が殺された。」という話もテレビでよく聞きます。人を傷つけることの何が悪いのでしょうか。以前、先生から学校での悲しい話を聞いたことがあります。学校に不しん者が入り、たくさん子どもたちが傷つけられた、というものです。その時には一階にも教室があったそうですが、今では少しでも安全に過ごすことができるように、子どもたちの教室は二階以上になることが多いそうです。

どうして、「人を傷つけよう。いやなことをしよう。」と考えてしまうのかはわかりません。何か理由があるのかもしれませんが、人を傷つけるのは本当によくないことです。

また、「いじめ」も本当によくないことだと思います。学校だけでなく、様々なところでいじめが起きています。わたしも辛い経験をしたことがあります。しかし、自分も人に対して嫌なことをしてしまったこともあります。例えば、必要ないことを言ってしまったたり、無視をしてしまったたりしたことがあります。

「自分がされていやなことは人にしない。」ではなく、「自分がいやではなくても、相手がいやがることは人にしない。」ということを考えて生活していきたいです。

わたしは、はんざいやいじめなど、人が嫌がることをして幸せになる人はいないと思っています。誰にでもいやなことや辛いことはあります。しかし、いやなことがあったからだれかを傷つけたり、いじめたりして良いわけではありません。

本当に安全な社会とは、自分たちで考えて誰もきずつくことがない社会だと思います。いつか本当に全ての人が安全に過ごすことができる世の中になるように、わたしもしっかりと考えて生活していきたいです。

「あいさつをがんばろう」

多喜浜小学校 6年 石川 稀隆

ぼくは今、朝のあいさつをがんばっています。四月からは登校班の班長になり、新しく入学してきた一年生と登校しています。登校班の班長として、一年生のお手本になるように、去年よりもあいさつをがんばっています。

ぼくは、自信を持って大きな声であいさつができるようになりました。できるようになった大きな理由は、習い事の空手だと思っています。習い始めたきっかけは、父が空手を習っていたからです。習い始めた時には、空手はパンチや蹴りを習って強くなることだけが目的だと思っていました。でも、始めた時にびっくりしたのは、空手をしている人達のあいさつの声が大きかったことです。すごかったことを覚えています。空手を習い始めて最初に教えてもらったこと、それは、空手は強さだけではなく、礼ぎや礼節も学ぶところだということです。体も心も強くなるために、これからがんばりたいと思っています。礼ぎやあいさつの他にもがんばっていることがあります。それは、人前ではきはきとしゃべるということです。ぼくは、今年、最高学年として、児童会役員になり、広報委員会の委員長としてがんばっています。様々な場面で、人の前でしゃべる機会が多くなりました。しゃべること自体は、いやではないけれど、きんちょうして声が小さくなる場合があります。これからたくさんの人前でしゃべる機会があるので、きはきはきとしゃべることを意識してこれからがんばっていきたいです。

小学校での生活もあと一年くらいで終わります。中学校では、小学校以上に敬語の使い方やはきはきとしゃべることがより重要になってきます。あと一年でしっかりと身に付け、中学校の生活に生かしていききたいです。

これらのがんばりを生かして、がんばりたいことがあります。それは、下級生にもしっかりとあいさつをしてもらおうということです。そのためには、自分自身のあいさつをがんばらないといけません。下級生が見てまねをしてもらえるように小学校生活最後の一年、がんばりたいです。ぼくや下級生、そして多喜浜小学校のみんなが、すれちがった人や地域の人に大きな声であいさつができるように目指していききたいです。

あいさつをすれば、社会全体に笑顔があふれ、一人一人の幸せにもつながってくるとしています。ぼくがその最初の人になれるように、大きな声であいさつをしていききたいです。そして、あいさつの輪を広げていききたいです。

「よりよい新居浜市をつくるには」

大生院小学校 5年 大西 汐音

私は、海山川にかこまれた自然いっぱいの新居浜市、はく力満点で楽しい新居浜大鼓祭りが大好きです。ところが最近、人口も減っているせいで、新居浜市の元気がなくなってきています。だから私は、そんな新居浜市をまた活気に満ちあふれた新居浜市にもどしていききたいな、と思っています。そのためにはどんなことをしたらいいだろうと考えてみました。私が特に大事だと思ったのは、「人と人のつながり」をつくることです。なぜなら人と人のつながりがあれば、そこにだん結力が生まれ、新居浜市をいろんな場所でアピールしたり、イベントなども活気が出たりするんじゃないかと思いました。私は、その人と人をつなぐために、意しきしていききたいことが二つあります。まず最初に意しきしていききたいことは、「先取りあいさつ」を心がけることです。なぜなら、先取りあいさつは、相手が先にしてくれて、うれしいし、気持ちがいいです。それにあいさつは、短い言葉だけど、人と人をつなぐとても大切なコミュニケーションなので、一人一人が心がけていけたらなと思います。次に意しきしていききたいのは、地域のイベントに参加してみたりすることです。イベントに参加すると、地域のことがたくさん知ることができるし、地域の人と交流することで、地域の人との仲を深められるかもしれないからです。実際、私はあまり参加しません。だけど今ふり返ってみると一人一人が意しきすることが大切だと思ったので、これからは積極的に参加していけたらなと思います。今の二つをもとにみんなで意しきしていくと、他の市の人や他の県の人が、「新居浜市は、とてもいい人が多くて、イベントがさかんなとても良いところなんだな」とひょうばんも上がると思います。この二つは、前から意しきできていたのか、自分でもふり返って次からは気をつけていきたいです。そして常に意しきしながら日常を送っていけたらなと思います。でも今の二つを意しきしたのはいいこととして、私は他に気をつけたいことがあります。今の新居浜市、かんきょう面に関してはどうでしょうか。かんきょう面がひどいと、新居浜市のすてきな一部でもある、自然がくずれてしまいます。みなさんは、そんなすてきな自然がくずれてもいいと思いますか。私は、そんな自然がくずれてしまうのがとてもいやです。新居浜市は、かんきょう面に関しても気をつけなければいけないことがあると思います。そんなかんきょう面を整えるには、ポイすてをやめないといけません。ポイすては一人が一つならいいやと思ってやっているとどんどんゴミが街中にたまって行って、きたない街になってしまいます。そうすると人にも、人以外の動物にも、えいきょうをおよぼしてしまうのでポイすては、一人一人が気をつけないと意味がありません。ポイすてをやめるには、いままで自分がポイすてをやったことがあるかふり返ってみる

のがいいと思います。もしやったことがあるのなら、次はやめようと自分で心がけることを意識することが大切だと思います。私は新居浜市が大好きなので、無意識に自然をかんきょうをこわしてしまっていないか考えていきたいです。これらの人と人をつなぐ、かんきょうに気をつけるをみんなで気をつけて、意識しながら、みんなが住みやすい楽しい新居浜市をつくっていくために努力していきたいです。

「新居浜市を明るくするためには」

大生院小学校 5年 野口 莞太

ぼくは新居浜市が明るくなるためには三つのことを守ることが大切だと思います。今からその三つをしょうかいしていきます。

まず一つ目ははんざいをなくすということです。はんざいは、とても悪いことです。万引きなどをしていると、こう言われてしまうかもしれません「新居浜市は悪い町だ」と言われるかもしれません。はんざいがなくなると、安全な町ができます。そしてみんなが安全にぐらすと、元気で明るい町になるでしょう。

二つ目は、あいさつです。あいさつはとても大事なことです。みなさんもあいさつをかえしてくれたりするとうれしいでしょう。みんながあいさつするとみんなコミュニケーションがとれてあいさつがいっぱいな町になり、「新居浜市はいい町」と言われるでしょう。

三つ目はみんながニコニコ笑顔でいることです。みんながニコニコ笑顔じゃないとみんなテンションや元気がなくなってしまうかもしれません。ですがニコニコ笑顔だと、明るく楽しい町になると思います。

このように意しきすることはたくさんあります。それができると明るくなります。しかしできないと暗くなります。みなさんも気をつけて明るくぐらしましよう

「新居浜を明るくするために」

中萩小学校 6年 井上 七菜子

みなさんは、犯罪や非行について、どう思いますか。「犯罪、非行はいけないこと。」そう考えている人はたくさんいると思います。私は、ニュースなどで犯罪が起きているのを見て、「どうして、この人たちは犯罪をするんだろう。」「いけないことを、なんで人はやめないんだろう。」「犯罪や非行がゼロにならないのかな。」と思っています。誰かが犯罪や非行に手をつけようとしていたら私は、それを止めようと思うのですが、実際にそんなことが起こったら勇気があまり出ないと思います。犯罪や非行を止めようとしたら、私までも巻き込まれたらいやだからです。でも、私にもできることがあると知りました。

犯罪や非行をしないために、自分の気持ちと命を大切にすることが大事だと考えています。犯罪や非行は怒りや恨み、嫉妬などで起こる場合があります。なので、感情的になる前に、自分のしようとしていることに気づいて、犯罪や非行となる行動をしないようにするといいと思います。自分の命を大切にするという理由は、自分が命を大切にしようとして心がかけていると、犯罪に巻き込まれないように日頃から気を付けることができたり、自分を大切にすることで、精神的な安定や幸福感を得たりすることができます。こうすることで、犯罪が減ると思います。命を大切にすると自分だけでなく、自然に他者の命も大切だということを考えられるようになります。それが最終的に命に係わる犯罪を無くすことにつながります。

また、犯罪や非行をした人たちの立ち直りについて考えました。立ち直ろうとする人を受け入れて、その立ち直りに手を差し伸べなければ、立ち直ろうとしていた人は孤立し、犯罪や非行を繰り返すことがあります。なので、犯罪や非行をした人を孤立させるのではなく、立ち直ることを受け入れ、二度と犯罪に戻らない、戻らせないようにすることが大切です。立ち直ろうとする心も大事ですが、立ち直ろうとするのに手を差し伸べることも大切です。このことも、犯罪が増えるか増えないかに関わると考えています。

これらのことが、私にできることだと考えています。私のように勇気がでない人も、そうでない人も、まず自分が犯罪をしないようにする、犯罪から立ち直ろうとしている人に手を差し伸べる、というところから、始めてみませんか。

「人とのつながりで安心な未来を」

中萩小学校 6年 岩崎 悠月

明るくて、くらしやすい町にしたいと思ったら、まず、その住人が安心できて、住んでてよかったと思えることが一番大切だと私は思っている。

最近、空き家が増えているとか、一人ぐらしの高齢者が増えているという話題をテレビでよく聞くようになった。ニュースを聞いていると、〇〇さぎや強とう事件も起こっていると感じる。こわい。

そんな時、心配になるのは、八十八才で一人ぐらしをしている曾祖母のことだ。私が曾祖母に会うのは、夏休みやお正月の時くらいだから、会っていないときはどうしているんだろうと心配になる。だけど、いつ会っても曾祖母は、明るくて元気である。なぜだろう。さみしくないのかな。

曾祖母の家にいるときに分かったことは、近所に仲良しの人がいるということだった。野菜のおすそ分けをしてもらったり、世間話をしたりしながら、いつも笑顔である。

そういえば、小学校二年生くらいとき、曾祖母と近所のおばあちゃんとで、トランプやカルタをしたこともあった。近所のおばあちゃんは、とても話しくなくて、楽しかった記おくがある。曾祖母は、私達がいなくて、近所の方たちとこんな風にすごしているのだと思うと、安心できた。おだやかに、楽しく、自分のペースで過ごせているのが、とてもうれしい。

近所の方たちとのつながりって大切だ。

人とのつながりは、顔見知りだけではないことも知った。

八幡浜のコンビニで、店員さんが、さぎにあいそうだったおじいさんを助けたということで、けいさつ署から感謝状をもらっているニュースもあった。店員さんは、全然知らないおじいさんだったけど、様子がおかしかったので、声をかけてくれたそうだ。おじいさんの家族は、本当にうれしかったし、ありがたかったと思う。身近にいる人のやさしさが、おじいさんのことを救ったのだ。余計なお世話になることもあるかもしれない。でも、思いやりの気持ちで行動できる店員さんだったから、おじいさんは助かったのだ。

自分が行動することで、いやな思いをするかもしれない。迷わくがられるかもしれない。それでも、ひと声かけられる自分でいたいと思った。

人とのつながりは、顔見知りだけでもないんだ。

つながりを大切にすることは、安心につながるんだ。

自分になにができるんだろう。

私も、自分の住んでいる地域の人達と、つながることができないかな。

中萩校区では、「ホタルを観る会」があったり、「中萩校区三世代演芸大会」が

行われたりする。春や秋には、子ども太こ台や、大人太こ台が地域をねり歩き、もり上がる。そんなずっとつづいている伝統を知り、つなげていくなかで、できる人間関係もあるだろう。

未来って、今のえん長線上にあると考えたら、今、生きている私達が、もり上げたり、つないだりしながら、つくっていくものなんだと思えた。

「新居浜市を明るくする四つのこと」

泉川小学校 6年 佐伯 琴音

私が、新居浜市を明るくするために必要だと考えることは、四つあります。

一つ目は、「あいさつ」です。私が自転車で走っていると、前からおばあさんが歩いてきたので、「こんにちは。」と声をかけました。するとそのおばあさんが、「こんにちは。あいさつをしてくれてありがとう。」と言ってくれました。このとき私は、「あいさつは人の気持ちを明るくさせるんだ」と改めて思いました。

二つ目は、「悩んだり困ったりしている人にやさしく手を差し伸べる」ということです。私が五年生のころ、あることで悩んでいると友達数人が、「どうしたの?」「大丈夫?」「何かあったら言ってね。」「手伝えることがあったら手伝うよ。」などと、やさしく声をかけてくれたのです。友達のやさしい気持ちや声かけのおかげで、悩みを解決することができました。だから私も、悩みを抱えていたり困っている人には、一言でもいいので声をかけてあげたいです。

三つ目は、「いつも会っている人にも、きちんと感謝を伝える」ということです。家族や友達、先生など身近な人にも日ごろの感謝を伝えることが大切だと思います。何かをしてもらってあたりまえだなんて思うのではなく、ありがたいと思うことが大切だと思います。そのため、何かしてもらったら笑顔で、心からの「ありがとう」を伝えることが大切だと思います。

四つ目は、「いじめをしない・加わらない」ということです。みんな知っているように、いじめは、どのような事情があってもしてはならないことです。「いじめていたつもりはない。」「遊んでいただけ。」なんていう言い訳は決して通用しません。そして、もちろんいじめに加わるのもダメなことです。「いっしょにしようって言われて断りきれなかった。」なんて言っても、それはただの言い訳にしかならず、いじめをしたことに変わりなくなるのです。

この四つのことを大切にすると、もっともっと新居浜市が明るくなると思います。

「笑顔あふれる新居浜」

泉川小学校 6年 白石 紗萌

笑顔あふれる新居浜市をつくるためには、どうしたらよいのかを家族といっしょに考えてみました。まず一つ目は、あいさつをすることです。知らない人から自分から声をかけてあいさつをする事は、勇気がいることだと思いますが、自分からあいさつをした相手があいさつをかえしてくれると、心があたたかくなります。反対も同じで、知らない人からあいさつをしてもらえると、少しびっくりするけれどもうれしい気持ちになって、あいさつを返したくなります。あいさつをくり返しているうちに初めは知らなかった人でも、自分の知っている人に変わります。私の学校ではあいさつボランティアがあります。そのボランティアに参加することで、みんなもうれしい気持ちになるし、他の学年の子とも交流ができてお友達になれるので、朝から気持ちのいい一日をおくることができます。

二つ目は、自分たちの住んでいる町を自分たちできれいにしていこうという気持ちをもって生活することです。私の住んでいる地域では、小学校、中学校を通して地域のそうじをするボランティア活動があります。このボランティア活動では、子どもたちが地域の大人の方といっしょに、ごみを拾ったり花を植えたりなど環境美化活動に力を入れています。この活動を通して、自分たちが住む町を自分たちの手できれいにすることで、この先の未来もきれいなこの町でこれからも過ごしたいと思う人がたくさんいると思っています。また、地域の大人の方と一緒に活動することで、一つ目のあいさつの時と同じように知らない人と交流ができるようになり、顔見しりの人が増えることでコミュニケーションを取る相手が増え、その結果犯罪にまきこまれるようなことが減るのではないのかなと私は思います。悪いことをする人や怖い事件がなくなれば、みんな毎日楽しく、幸せで、笑顔でくらしていけるのではないのでしょうか。

この二つのことを通して、明るい新居浜を作るためには、まずは今、自分が住んでいる地域の方たちとあいさつやボランティアをすることで関わりをもち、顔見しりの人がたくさん増えることでいろんな年れいの人とコミュニケーションを取れるようになり、犯罪にまきこまれることもなくなると 생각합니다。その結果みんなが笑顔で毎日くらせる町になり、新居浜に笑顔がたくさんあふれるようになると 생각합니다。

みなさんも笑顔あふれる新居浜を作る工夫をしてみませんか。

「社会を明るくするには」

泉川小学校 6年 高橋 夢空

私は社会を明るくするためには、あいさつをすることからだと思います。家族や、地域の人たちに、あいさつをすると、あいさつをしてもらった人もうれしいし、あいさつをした人も笑顔になると思います。まずはこのように、あいさつをくりかえして、まずは地域の笑顔をふやすことから、はじめていったらいいと思います。つぎに、地域のボランティア活動や、地域の活動に、さんかすることが大事だと思います。地域のボランティアに、さんかすることで、地域の人たちと仲がよくなったり、ゴミひろいなどのかんきょうにかんじた、活動をすることで、かんきょうのことにかんして、とてもしれると思うし、地域のかんきょうを守ることができるし、さらにゴミをひろうことで、安全をまもることにもつながると思うからです。ゴミがどうろにおちていたら、それをふんでころんでしまっけがをしてしまう、かのうせいがあるので、地域のボランティアにさんかすることが、いいと思います。さらに、地域の活動にさんかすることもいいと思います。地域の活動に、さんかすることで、地域のいろいろな人とのこうりゅうも、できることがいいところだと思います。活動にさんかすると、さらにほかの地域の人たちとも、こうりゅうができると思います。私も一年になんかいか地域の活動に、さんかしています。そこには地域以外の、小学生の人たちが、なん人かきていました。このようなけいけんをいかして、わたしは、地域の活動にさんかすることを、おすすめします。地域の活動は地域のカベをこえて、市中の小学生たちと、こうりゅう、できる大切な、時間だと思います。その時間をとおして、わたしは、ほかの小学校の女の子と、ともだちになりました。そのともだちの子とは地域の活動がある日に、いっしょに活動にとりくんだりしています。このように、地域の活動は、地域の人たちのこうりゅうは、もちろん、ほかの小学校の人たちとも、こうりゅうのできる場所だと考えています。このように、まずはあいさつか、地域のボランティアや地域の活動など、社会を明るくするために、まず自分のすることからはじめていくと、いいと思います。

「あいさつでつながろう」

船木小学校 6年 宇野 咲笑

みなさんは、「あいさつの大切さ」を知っていますか。私は以前は、あいさつとは感謝の気持ちを伝えたり、コミュニケーションをとるためのきっかけになったりするだけだと思っていました。そんな私が、「安全・安心できる新居浜市にするには」というテーマを見たときに、「それには、あいさつを大切にすることだ。」と頭に浮かんできました。

一言であいさつと言ってもいろいろな言葉がありますが、その中でも「ありがとう。」や「いただきます。」などの感謝を伝えるあいさつを毎日たくさん使うことで周りの人と上手にコミュニケーションをとることができると思います。感謝の気持ちを伝える側だけでなく、伝えられた人にとっても気分が良くなるものです。その他にも、私たちが毎日一番多く使っている「おはようございます。」というあいさつをすると、言われた側は「今日も一日がんばろう。」と思えるのではないのでしょうか。ふだん、何気なく声をかけているあいさつですが、実は犯罪を防ぐことにつながるのではと考えます。なぜなら、あいさつは顔を合わせて人の目を見ることが多いと思います。すると、知らない相手でもあいさつをしていくうちに相手のことを知ることにつながります。知り合いが増えていくことでおたがいの安心にもつながり、安全に過ごせる新居浜市になっていくと思います。

あいさつだけでなく、地域のイベントに参加することも安心・安全な街づくりに近づいていくと思います。イベントに参加することで新居浜市のことを知ることができます。もしもイベントに参加しているお年寄りと話す機会があれば、地域の歴史を知ることできるかもしれません。そうして顔見知りになった人たちが増えると、私たちを見守ってくださる人たちも増えていきます。このように、私たちを見守ってくださる方は校区にはすでにたくさんいてくれます。毎日の登下校のときに、雨の日もとても暑い日でも優しく声をかけてくださったり、交通安全に気を付けてくださったりしてくれています。私は出会うたびに「いつもありがとうございます。」とあいさつをしたい気持ちはあるけれど、なかなか勇気を出して声をかけることができていません。そんなときには感謝の思いをこめて「おはようございます。」と声をかけることから始めてみようかと思っています。毎朝、声をかけ続けることで優しいつながりができてきたらうれしいです。